

鈴木まみが実現したいこと

人口減少・ 少子化に歯止めを！

人口減少問題、少子化対策に取り組むため、若者と若年女性の県内定着と回帰を強力に推進する必要があります。

1

若者と若年女性の 定住回帰の促進



- 若者にとって魅力的な職場の創出
- サテライトオフィスの誘致・リモートワークの推進
- 多様性の時代における女性活躍の推進
- 若年男女に対する起業支援の強化
- 学び直しの機会の充実

3

産業の振興と 観光の活性化



- 海外輸出展開に対する支援強化
- 事業承継・DXの推進
- 地域の豊かな食文化を活かした産業の振興
- 再生可能エネルギー関連企業の誘致
- 地域の特色を活かした観光の促進

5

誰もが安心して 暮らせる街づくり



- 災害に強い地域防災体制の整備
- 南秋田における2次医療体制の維持・強化
- 高齢者・障がい者を支える福祉環境の整備
- 高齢者の孤独化問題と空き家問題の解決

2

出産、子育て、 教育環境の充実



- 不妊治療、出産への助成拡大
- 結婚支援の一層の充実
- 児童虐待防止の強化
- 男性の子育て参画、家事分担など両立支援の促進
- 保育園や学校を取り巻く課題の解決

4

持続可能な 農林水産業の推進



- 農地集積・集約の加速化と農業の高付加価値化
- 中小規模農家が抱える課題への対策
- みどりの食糧システム戦略への対応
- カーボンニュートラルに向けた再生林の推進
- AI、IoTを活用したスマート農業の推進

鈴木まみ 真実



ともに、
進もう。
南秋田の元氣と
笑顔のために。

さらに前進！さらに挑戦！
もっと大好きな秋田に

今こそ県民による県民のための県政を。

4年前、私が秋田県議会議員選挙に初挑戦したときの思いは、「地域の生の声を県政につなげ、誰もが参画できる身近な政治を実現したい」ということでした。

その思いは今も変わらず、県議会議員1期生として走り続けていますが、この4年間は想像もつかないような出来事がありにも多すぎました。世界中を混乱させた新型コロナウイルス感染症の発生、国際秩序を一変させたロシアによるウクライナ侵攻、企業活動や県民の暮らしを直撃している燃料・物価高に物資不足、異常気象が引き起こす自然災害。国が、地方が、そして我が

南秋田が、今なお重い空気に包まれています。

しかし、こんなときだからこそ、前を向かなければなりません。私たちは今、歴史的分岐点に立っています。この先2～3年の私たち県民の取り組み方で、間違いなく未来は変わってきます。人口減少のスピードを抑えるために出生数をどう増やし、若者の定住・回帰にどう取り組むべきか。雇用を生み出す成長産業をどう創り、どう育てるかなど、議論すべきことが山積している秋田ですが、持っているポテンシャルは決して低いことを、私たちは知っています。

今あるもの、土地に眠っているものを輝くまで磨きましょう。可能性の種に水をまいて、大きな木になるまで育てましょう。皆で力を合わせれば大丈夫、できるはずです。

前を向き、ともに進みましょう。ふるさと秋田、そして3町1村、南秋田の元氣と笑顔のために。

討議資料

《連絡先》鈴木まみ後援会事務所 〒018-1513 南秋田郡井川町黒坪字小泉36

Tel **018-838-5404** Fax **018-838-5405**

E-mail **suzuki-mami@cd.wakwak.com**



総括審査で
知事に迫る！

「1期4年間で出来たこと」

- ◎地域住民と知事・県とのつなぎ役を果たした
(一般質問5回・総括審査11回)
- 不足する民生児童委員の環境整備
(令和元年6月一般質問)
- 「公的・公立病院の統廃合(県内5病院のうち湖東病院を含む)」の動きに対し国へ反対意見書を提出
(令和元年9月総括審査・12月議会で反対意見書可決)
- 児童虐待から子どもを守るための勉強会への参画
(令和元年3～4年度)
- 若者、若年女性の定住・回帰や魅力的な職場づくりを県に働きかけ
(令和3年12月総括審査・令和4年6月総括審査など)
- 認定こども園の存続の危機→子育て支援の強化
(令和4年9月一般質問)
- 大潟村正面堤防の改修工事を県に要望して実現
(令和2年6月要望)
- 令和4年8月12日～13日
五城目町集中豪雨による災害への対応
内川川・富津内川の災害復旧への迅速な対応
(前代未聞の36カ所予算認定)
- 基幹産業としての農業の在り方を追求
(令和4年9月総括審査)

《鈴木まみの決意》 南秋田を「秋田の成長モデル」にしたい。

3町1村の未来を見据えた取り組みを、全力でバックアップしていきます！



鈴木まみ プロフィール

昭和34年4月6日井川町小泉に生まれる。
五城目幼稚園から井川小学校、秋田大学
附属中学校を経て秋田高等学校を卒業。

【好きな言葉】

真実一路
進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む

【職歴】

昭和56年 秋田県庁入り
秘書課報道専門員、少子化対策推進監、
被災者受入支援室長、総務部参事兼広報広聴課長、
自治研修所長として勤務。
平成31年1月 県庁退職
平成31年4月～ 秋田県議会議員

【現在の主な役職】

産業観光委員会副委員長 自民党秋田県連女性局長

